

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北陸)		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・対前年で総売上が114%、宿泊人数113%、宿泊単価94%である。個人旅行の予約が好調であることに加え、団体旅行を受注できたことが大きい。
		スーパー（店長）	単価の動き	・国体開催を前に、全体的に活気が出てきている。
		コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・お盆期間から連休の日並びが良く、同期間の前年売上を大きく上回っている。前月の貯金もあって今月は好成績である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の投入もあり販売台数が多くなっている。涼しくなったせいか来客数も少しずつ多くなってきている。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・9月の販売量は前年同月比で約90%の見込みである。3か月前の販売量が前年同月比75%であったので、上向きである。
		自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・車の買換えやスタッドレスタイヤ購入客が増えてきている。客の声からも来年の消費税の引上げ前に高額、大型商品を購入する傾向が強まっている。それに押されて他の商品に対する購入意欲も高まっているようである。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・9月は2回の3連休もあって、販売量の動きは活発である。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・9月は3連休が2回あり、月末からは国体も行われることから、北陸新幹線開業時以来の売上が見込める。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品が発売されたことにより若干販売数は伸びたものの、商品入荷が間に合わず予約でとどまってしまう。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ここしばらくは来客数が前年を下回ることが普通になっていたが、今月はプラスになっている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・イベントの来客数、問合せが増えており、今後の契約額と契約棟数もまだまだ期待できる。前年同期と比較して販売額で約15%アップしており、消費税の引上げ前の駆け込み需要が本格的になってきている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築の販売棟数も、1棟当たりの単価もそれぞれ増加している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・来年10月の消費税の引上げに対する駆け込み需要が要因の一つと考える。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・イベント時の来客数は好調である。しかし、商店街への回遊性は相変わらず鈍い。猛暑のあとは台風などの天候不順があり、秋物の消費マインドは低いままである。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・販売量は変わらないが、少し単価が上がっているようである。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・来客数は前年と比べても増えておらず、客単価と購買点数も増えていない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・3月期末決算企業の間期末を迎え、株価がパブル期以来の高値で推移している。そのため、富裕層を中心に絵画や美術工芸品などの高額品が好調に推移し、店全体では前年超えの見込みである。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・天候不順による来客数の減少と北海道胆振東部地震による消費マインド低下も重なり、主力である衣料品を中心としたファッション関連の動きが悪い。秋物スタートダッシュの遅れが、全体業績の足を引っ張っている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・相場状況は大きな変動がないものの、やや高めで推移している。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・豪雨や台風の影響、さらに、北海道胆振東部地震の影響で野菜や魚介類が高騰している。客単価は上がっているが、買物回数が減少しており、この1か月は来客数が前年を下回っている。
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・猛暑や台風、北海道胆振東部地震などの影響で青果物と水産物の売行き、出荷に変動があったものの、おおむね前年を少し上回る状況である。また、お盆商戦についても、果物ギフトは前年より高額品の売行きが落ちているものの、販売量は前年並みであることから景気は横ばいと考える。	
	スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・台風による影響で来店頻度の減少を加味したとしても、依然として来客数の増加がない。	

スーパー（統括）	来客数の動き	・月初は台風21号や北海道胆振東部地震の影響でまとめ買いの動きがあり、客単価が好調であった。ただし、既存店の来客数は伸び悩んでいる。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今月はたばこの特需で、特に後半に売上が上がっている。来客数の落ち込みは過去数か月ずっと続いており、客単価の増加で何とかカバーしている状態である。今後は、明るい材料が余りないようである。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・気象の変動が激しく、各地から災害のニュースが届いている。客の心理にも少なからず影響がある。
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ここにきて天候も不順であるが、相変わらず売上の確保が難しい。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・残暑が短い9月であるため、エアコンの販売数量が伸びない。
その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・9月は、景気の悪さを示すような、これといったことがない。平穩無事な日々のように聞こえるかもしれないが、大変に苦しんでいる。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・シネマが好調に推移し、来客数は前年をやや上回る。しかし、店舗内活性化により一部専門店が閉店していることに伴い、売上は前年をやや下回る状態である。アパレルはダウントレンドだが、以前よりは改善している。飲食や食物販専門店は引き続き好調である。
一般レストラン（統括）	来客数の動き	・大型台風が売上高に与えた影響を考慮すれば、大きく変わる様子はない。この台風による影響は、9月は軽微であるが10月からの鮮魚や野菜など原料価格が上がる。
都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・宿泊部門は、台風による関西国際空港閉鎖の影響でインパウンドの催行が懸念されたが影響はなかった。レストラン部門はランチ営業が堅調に推移しているが、一部の店舗ではディナーの予約状況が若干悪い。全館での景気動向は変わらない。
タクシー運転手	お客様の様子	・客の話では、夏は行楽や家族で多くの出費があったそうである。猛暑も一服して利用客も減少傾向にある。また、猛暑の影響で夏バテ気味の客を見掛ける。夜の街も週末以外は寂しい傾向である。
通信会社（役員）	販売量の動き	・特に要因は挙げられないが、テレビとインターネットの新規契約獲得数が前年比で増加傾向にあり、ここ数か月は安定している。
テーマパーク（役員）	来客数の動き	・前年同月比でみた場合、3か月前と比べると予約状況は上向きであったが、台風や北海道胆振東部地震などの影響もあり直前になって予約が鈍り、全体としては横ばいで推移している。
住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・来場者数の伸び悩んでいる。
一般小売店〔事務用品〕（店員）	お客様の様子	・客からのFAXによる注文や問合せが少なく、来客数も伸び悩んでいる。
一般小売店〔鮮魚〕（役員）	単価の動き	・猛暑に豪雨、台風などの災害が日本各地で相次いでおり、魚価が高値で推移している。販売価格に簡単には反映できないので、粗利率を落としている。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・市営の、市街中心周辺のコミュニティバス運行が春に終了し、交通手段に費やす金額負担が増えるとともに、来客数が1か月ごとに減少している。
衣料品専門店（店舗運営）	単価の動き	・セールを実施したが期待していたほどまとめ買いがなく、割引した分の単価を落とす結果になっている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・9月に入り、新車、中古車共に厳しい状況が続いている。
スナック（経営者）	来客数の動き	・相変わらずの低空飛行であり、前年同月の15%減とぎりぎりの状態といったところである。なじみ客の中小企業経営者の話によると、人手不足の影響で当店への来店も減っているとのことである。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨や北海道胆振東部地震など災害が続いている。予約キャンセルの動きは止まったものの、個人客の宿泊やレストラン利用が減少している。
旅行代理店（所長）	販売量の動き	・台風や北海道胆振東部地震による旅行中止の影響が大きい。
タクシー運転手	来客数の動き	・天候の悪い日が続いて、県外客は少なくキャンセルが非常に多い1か月である。県内でも稲刈りが進まず、歓楽街が閑散とした様子である。
通信会社（役員）	販売量の動き	・9月より例年は商戦期に入るが、今月はサービスに関する問合せや契約の数が伸びていない。

	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	来客数の動き	・第2四半期の入会状況が悪く、会員の減少が続いている。大会員については、夏場に競合店の新規開業が相次いだので、その影響が大きい。
	x 商店街（代表者）	来客数の動き	・上旬は台風21号や北海道胆振東部地震と天災が続く、連日のテレビ報道によって外出する機会も減ったのか、人通りが極端に少ない日が続いた。台風による家屋の被害もあり、その修繕費用で衣料品などへの出費にまでは回らず、買物を控える傾向にある。
	x 高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・例年は、ポイントカード客に対してポイントを2倍で還元していたが、今年はディナータイムのみ有効にしたところ、来客数が85%と大幅に減少している。
企業動向関連 (北陸)	-	-	-
	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・全体的に稼働状況は上向きである。ただし、業績面では原料価格や電力費、物流費の値上げによって非常に苦戦している。したがって、受注先にも販売価格の値上げを交渉中である。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・原料の価格高騰や災害による輸送遅延などの影響はあるものの、総じて受注は順調に推移している。
	司法書士	取引先の様子	・会社設立や事業用融資、事業の活発化に伴う本店移転などの依頼が多い。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注状況を見ると、変わらずに推移している。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・欧州や米国、国内の3市場共に、好調に受注が取れている。
	精密機械器具製造業（役員）	取引先の様子	・大手取引先は、一部を除いて回復基調にあるところが多いようである。ただし、中小事業者はより厳しくなっているところが多いようである。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地元の公共工事が発注され始めたが、地域別、会社規模別に偏りがあり、全てに仕事が行き渡る状況ではない。
	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・客からの引き合いや、それに対する提案量の減少はみられない。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・台風や大雨の影響もあって観光客の戻りが鈍く、国内観光客やインバウンド需要を見込んだサービス業や小売業の売上増加には結び付いていない。取引先からは、特に休祭日が期待外れとの声を聞いている。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞くと半分くらいが忙しそうとのことで、変わらないと判断している。
	税理士（所長）	取引先の様子	・売上高については、取引先の話や聞くと総じて伸び悩んでいる状況である。一部で減っているところもある。大きな要因は建設現場での人手不足と、製造業についても人手不足の要因が大きい。経営者に話を聞くと、需要があるのに引き受けるだけの自信がないということが、足踏みしている要因であると考えられる。
	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・原材料を始め様々なコストアップ要因が収益を圧迫している。その対策として取引条件や販売価格の見直しを進めているが、その影響からか一部で受注量が減少している。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・7月後半から8月にかけての猛暑に続き、度重なる台風の影響で関西方面からの観光客が減少している。特に山岳観光ルートや全国的にも注目度が高い祭りの観光客が減少したと聞いている。
	x	-	-
雇用関連 (北陸)	-	-	-
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・前年比で求人広告が100%を超えている。安定して出稿があるところを見ると、人手不足感が定着して続いていると考えられる。
	民間職業紹介機関（経営者）	周辺企業の様子	・取引先の製造業では、受注が好調で多忙になってきているとの声を聞く。
	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・状況は変わらず、求職者の反応も変わらない。派遣システムへの求職者が少ない。
	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・新規求人先からの依頼が少ない傾向にある。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月の求人数は、前年同月比で7.2%増加している。主な業種としては、建設業、製造業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、複合サービス業で増加している。建設業からは、下請の確保がなかなか難しいということで直接雇用という形での求人が数件あった。また、宿泊業においても、一時期落ち込んでいた中国からの観光客が最近増えており、これとは別に台湾やフィリピンからの観光客も増えているという話である。</li> </ul>
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規の求人案内は落ち着いているが、2次募集の案内が8月末から目立ってくるようになった。</li> </ul>
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回の求人発行で50件ほど掲載件数が減っている。</li> </ul>
x	-	-	-